

## 中学校3年・国語

実践名：「情報を比較して読む」

### 中学校第3学年 国語科学習指導案

日 時：平成23年7月 8日（金）

場 所：玉陵中学校 第3学年教室

授業者：教諭 坂西 由美

#### 1 題材名 「メディア・リテラシー」（三省堂 現代の国語3）

#### 2 題材について

##### （1）題材のねらい

本題材は、新学習指導要領、第3学年の目標（3）「目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる」を受けている。

情報化社会といわれる現在、私たちは、テレビや新聞、インターネット、携帯電話など様々なメディアを通して多くの情報を得ている。しかし、膨大な情報を受信者がどう受け取るかによって、情報の価値は大きく変わってくる。

本題材は、情報の受け手として、メディアが果たす役割や影響を理解するとともに、情報発信者として、自分の表現に責任をもつことを自覚するなど、自分が情報といかに関わっていくかについて考えることをねらいとしている。また、同じ日の新聞を比較したり、テレビと新聞の比較をしたりすることで、メディアの特性や表現の仕方などについても学び、メディア・リテラシーの必要性を確認することができると思う。

##### （2）本題材の系統は以下の通りである。

###### 1年

- ・クジラの飲み水
- ・食感のオノマトペ
- ・ユニバーサルな心を目指して

###### 2年

- ・ホタルの里作り
- ・壁に残された伝言
- ・対話を考える

###### 3年

- ・平和を築く
- ◎メディア・リテラシー
- ・「ありがとう」と言わない重さ

##### （3）生徒の実態について（生徒数 32名）

本学級は、明るく素直な生徒が多いが、自分の考えに自信が持てずに、積極的に意見を発表するのが苦手な傾向にある。また、読むことの領域では、小説や物語などの文学的文章に比べ、説明的文章に苦手意識をもつ生徒が多い。

本題材で扱う「メディア」に関して、生徒がメディアの中で最も利用しているのはテレビ、次にインターネットである。新聞を読んでいる生徒は少ない。

##### （4）指導にあたっては、以下のことに留意する。

ア 初めにメディアの機能や利点を考えさせた上で、教材文の学習に入る。

イ 身近な例や、新聞の比較などを通して、地域や書き手の意図などによって、記事の内容が変わってくることを実感できるようにする。

ウ 説明文の構成や表現の仕方を学び、自分の表現にも生かせるようにする。

エ 携帯電話でのメールのトラブルなどの例を挙げ、情報の発信者としての意識をもたせ、

正しく情報を発信する力や情報モラルの意識を高めていくようにする。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア モデルカリキュラムの目標3「安全への知恵」、項目e3-1「情報の正確さを判断する方法を知る」やe4-1「情報の信頼性を吟味できる」との関連を重視して展開する。

イ 新聞の比較やメディアとの関わり方について考える活動を通して、メディア・リテラシーの力を身に付け、情報を正しく安全に活用する力をつけていく。

(6) 人権教育の視点

ア ペア学習や班学習を取り入れ、自分の考えを、自信をもって発表できるような雰囲気づくりに努める。

イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 題材の目標

(1) 情報との関わり方について自分の考えを持とうとしている。(関心・意欲・態度)

(2) メディア・リテラシーの機能を理解し、その必要性について自分の考えをもつことができる。(読むこと イ)

(3) 論理の展開の仕方や表現の工夫を捉えて読んでいる。(読むこと ウ)

4 題材の指導計画 (5時間扱い)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目 (方法)
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアの例を挙げ、どんな利点があるか考える。</li> <li>教材文を読み「メディア・リテラシー」の概要をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入で、テレビ、新聞、インターネットのどのような利点があるか考える。</li> <li>本文からメディア・リテラシーの定義を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を読んで、「メディア」や「メディア・リテラシー」とは何かをつかむ。(観察・ノート)</li> </ul>
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュースが伝える「現実」とは何か考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「それはとんでもないまちがい」という表現に着目して考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュースを形作って要素を具体的に挙げるができる。(ノート)</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアがもたらす「利点と限界」について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な例や新聞記事、ワークの資料などを活用し具体的に考えやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアがもたらす利点と限界について読み取る。(観察・ノート)</li> </ul>
3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「メディア・リテラシー」の必要性について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生活と関連させ、メディアとどう関わっていけばよいか自分の考えをまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の主張を読み取り、情報との関わりについて自分の考えを持とうとする。(意見交換・ノート)</li> </ul>
4	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ日の新聞記事を比較し、違いや書き手の意図を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真、見出し、記事の内容などを比較し気づきをまとめていく。班活動を行い、意見を出しやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を比較して読み、メディアの伝え方によって印象が異なることを理解することができる。(ノート・発表)</li> </ul>

## 5 本時の学習 (5 / 5 時間)

### (1) ねらい

同じ日の新聞を比較することを通して、メディアの伝え方によって異なる印象を受けることを理解することができる。

### (2) 展開

過程	学習活動と主な発問・指示	予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価
導入 5分	1 二つの新聞記事を見る。 ○これは、6月11日の新聞です。この日はどういう日でしょう。 ○二つの新聞の見出しを比べてみましょう。	・東日本大震災から3ヶ月。 ・「犠牲者の数」 ・「風評被害のこと・・・」	・二つの新聞を示し、同じ話題でも取り上げ方が違うことに気づかせる。
展開 35分	2 本時の目標をつかむ。 ○3つの新聞記事を見てください。同じ日の新聞です。	・写真が違う。 ・見出しが違う。	・同じ立秋(8月7日)の記事であることを知らせる。
	3 三つの新聞記事を読み比べる。 (1) 写真、見出しの共通点や相違点を表にまとめる。 (2) 班で、記事を読み、内容の要点をまとめる。 (3) 班で、記事の内容や写真から、書き手の視点や意図について考える。 4 班で出た意見を発表する。 ○班で出た意見を発表してください。	・新聞を見て、項目ごとに表にまとめる。 ・班で記事を読み合い、内容の相違点にラインを引く。 ・班で意見を出し合う。 ・見出しや写真の与える効果と記事の内容との関係を考える。 ・Aは、見出しも写真もまだ暑そうなイメージで・・・ ・Bは、まだ暑いと書いてあるが、涼しげなイメージで稲穂を使っている。 ・Cは、栗で秋の気配を出し残暑より実りの秋を強調。	・班で記事を読み合い、協力して作業できるような雰囲気作りをする。 ・まず、見出しや写真が与える印象が大きいことを確認する。 ・日本の地理的特性についても触れる。 ・机間指導をしながら、班の話し合いの様子をチェックする。
終末 10分	5 本時のまとめをする。 ○今日の学習を通して考えたことをノートにまとめましょう。	・新聞を比べてみて思ったこと考えたことをノートにまとめる。	・情報の活用の仕方の注意点や「メディア・リテラシー」の必要性を再度確認する。

新聞を比較して、伝え方の違いや受ける印象の違いを考えよう。

**【評価】**  
メディアの伝え方によって異なる印象を受けることがわかる。  
(発言・ノート)

## 6 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え、行動	道徳「ランドセル」（節度節制） 携帯のマナーを守る。
b4-1：個人の権利（人格権、肖像権など）を尊重する b4-2：著作権などの知的財産権を尊重する	道徳「元さんと二通の手紙」（きまりを守る） 著作権を守り正しく情報を扱う。
c4-1：違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る c4-3：契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する	技術「情報社会と私たちの責任」 生活の中でのコンピュータの役割について考える。  技術「情報社会と私たちの責任」 知的財産権（著作権・特許など）の基本的な考え方を知る。  社会「消費者の権利と保護」 消費者保護について知る。
d4-1：安全性の面から、情報社会の特性を理解する d4-2：トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	家庭「わたしたちの消費と環境」「消費者としての自覚をもとう」 悪質な商法の種類やトラブルについて理解する。
e4-1：情報の信頼性を吟味できる e4-2：自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる	<b>国語「メディア・リテラシー」</b> <b>メディア・リテラシーの必要性を理解し、情報との関わり方について自分の考えをもつ。</b>
f4-1：健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し行動できる f4-2：自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	
g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける	技術「情報社会と私たちの責任」 情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。
h4-1：基礎的なセキュリティ対策がたてられる	技術「情報社会と私たちの責任」
i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する	技術「マルチメディアの活用」現在の情報通信ネットワーク